

4 地理A

指導と評価の年間計画例 (第2学年用)

【学習指導要領】	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取組	・現代世界の地理的諸課題に対する関心と課題意識をもつことができるよう、身近な事例からテーマを設定する。 ・世界の諸地域の生活や文化の特色を世界的視野に立つて多面的・多角的に考察できるように、地図や統計・画像などの地理情報を有効に活用するとともに、授業ごとに思考・判断を問う内容を設定する。
【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	・諸資料を地理的に分析・追究して表現する技能が身につくよう、作業的・体験的な学習を取り入れるとともに、結果を表現する場面を多く設定する。 ・現代世界の地理的諸課題についての基本的事項が理解できるように、適宜課題追究学習を取り入れる。

月	単元名	使用教科書項目(書店談の新地理A)	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4	地図と世界	地理Aの授業について(はじめに)	1	・地理A学習の意味	アンケート実施
		主題1 世界の主要都市と名勝	1	・世界の主要都市や名勝の位置を地図上で確認することにより、世界に関心をもち、世界地理への視野を広げる。 ・世界地図の見方・利用法、絶対位置のとらえ方を理解する。	プリント確認 行動観察
5	第1章 地球上での生活	第1節 球面上の世界と地域構成	2	・地球の形や運動を理解し、それが及ぼす影響を考察する。	プリント確認 グループ別学習
		2 地球規模からみた世界	2	・球面上の世界と地域構成を、地球儀と世界地図との比較や略地図を通して理解する。	
		3 世界的視野からみた日本の位置と領域	1	・地球儀と世界地図を活用して日本との関係を考察し、日本の位置・領域に関する特色を理解する。	
6	第2章 結びつく現代世界	第2節 1 情報・通信の発達により一体化する世界	2	・現代世界とその変化に対する関心をもつ。 ・交通、通信の発達、人や物の国際間の移動などの地域性や動向を考察する。 ・主題図や統計を通して、国家間の結合や国際貿易が活発化していることを理解する。 ・2ヶ月間の学習の状況について自己評価する。	プリント確認 行動観察
		2 交通の発達により交流する世界	1		
		3 世界の貿易	3		
		4 国家間の結合	2		
7	第3章 多様性を増す人間行動と世界	前期中間考査	1	・世界や日本に関する身近な情報に関心をもつ。 ・世界や日本に関する身近な情報を収集し、地域性と関連付けて考察する。	自己評価表の記入 授業評価表の記入 プリント確認 行動観察
		テスト返却 授業評価	1		
7	身近な地域の国際化の進展	第3節 1 経済発達と消費・余暇活動	2	・経済発達とともに、消費や余暇に関する人々の行動、観光、ボランティア活動などの国際化が進展していることを理解する。 ・旅行プランの計画を通して、世界の各地域に関心をもつ。 ・現代世界のある地域を、人々の営みや他地域との関係、環境条件などを踏まえて多角的に考察する。 ・様々な資料から地理情報を取得し、適切に活用する。 ・旅行プランをまとめて発表する。	作品発表 作品提出
		2 人間活動を知る身近な情報	2		
		主題2 わたしの海外旅行プラン	4		
7	身近な地域の国際化の進展	第4節 1 身近にみられる国際化	1	・生活圏、行動圏にみられる世界と結びつく地域調査に関心を持ち、その意義を理解する。 ・物の輸出入や人々の交流を通して、日本と世界との結びつきを理解する。	プリント確認 行動観察
		2 国際化を課題にした身近な地域調査	1		
		3 日本と世界との交流	2		
9	第2章 生活・文化と環境	主題2 野外(地域)調査	4	・地域調査が、地理学習にとって不可欠であることを理解する。 ・地域調査の方法を習得する。 ・地形図の正しい利用法を理解する。 ・地域調査から、身近な地域の国際化の進展を理解する。 ・地域調査の結果を考察し、発表する。	グループ別学習 作品発表 作品提出
		第1節 1 人ひとをとりにまく地形	2		
10	第1章 生活・文化と環境	2 人ひとをとりにまく気候	2	・世界の諸地域の生活様式や文化に関心をもつ。 ・世界の地形や気候の違いとその特徴を、農業、生活などとの関わり合いで考察する。 ・世界諸地域の生活や文化を、自然環境要素や地域性、民族性と関連付けて、多角的に考察する。 ・異文化を適切に理解することの意義を学ぶ。 ・これまでの学習の状況について自己評価する。	プリント確認 行動観察
		3 世界の民族と文化	2		
		前期期末考査	1		
		テスト返却 プリント確認	1		
		4 アメリカの生活・文化と環境	2		
		5 アジア・北アメリカの生活・文化と環境	2		
		6 EUの生活・文化と環境	2		
7 オーストラリアの生活・文化と環境	2				
11	近隣諸国の生活・文化と日本	第2節 1 近隣諸国の学習	2	・東アジアや東南アジア、ロシアの生活様式や生産活動に関心をもつ。 ・近隣諸国の生活や文化を理解する。 ・近隣諸国の生活や文化の特色を、日本との共通性や異質性に着目して考察する。 ・近隣諸国の人々と共に生きていくことの意義を学ぶ。	プリント確認 行動観察
		2 韓国の生活・文化と日本	2		
		3 中国の生活・文化と日本	2		
		4 ロシアの生活・文化と日本	2		
12	第3章 諸地域からみた地球的課題	後期中間考査	1	・現代世界が抱えている地球的な様々な問題に関心をもつ。 ・環境、資源、エネルギー、人口、食料及び居住や都市問題を、地域の環境条件と関連付けて考察する。 ・地球的課題は国によって特色ある現れ方をしていることを理解する。 ・地球的課題の解決には、国際協力が必要であることを理解する。	プリント確認 行動観察
		テスト返却 プリント確認	1		
1	諸地域からみた地球的課題	1 地球的課題の出現と地域性	2	・地球的課題の解決にあたって今後取り組むべき問題や自己の立場をまとめ、発表する。	プリント確認 行動観察
		2 人口問題	2		
		3 居住・都市問題	2		
2	諸地域からみた地球的課題	4 食糧問題	2	・1年間の学習により何が学べたかについて総括する。 ・地理学習の意味は何であったかについて総括する。	小テスト
		5 資源・エネルギー問題	2		
		6 環境問題	2		
3	諸地域からみた地球的課題	7 相互に関連する地球的課題	2	・地球的課題の解決にあたって今後取り組むべき問題や自己の立場をまとめ、発表する。	レポート提出 レポート発表
		主題3 地球的課題の解決にあたって	1		
月	地理Aの授業を終えて	授業評価	3	・1年間の学習により何が学べたかについて総括する。 ・地理学習の意味は何であったかについて総括する。	年間の反省 授業評価表の記入
		後期期末考査	1		
合計時間数			70	第1章の第3節と第4節はそのどちらかを選択して実施する。	

地理 A

評価規準を明確にした単元の指導計画例

1 科目の目標 「学習指導要領」の科目の目標と同一

現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 科目全体の評価の観点の趣旨

「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発（中間整理）」に記載されたもの

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用 of 技能・表現	知識・理解
現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付けるとともに、追究した過程や結果を適切に表現する。	現代世界の地理的諸課題についての基本的な事項や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

3 単元 「現代世界の特色（1）球面上の世界と地域構成」の目標と評価規準

(ア) 大単元「現代の世界」の目標

現代世界の地域性の動向を作業的、体験的な学習を通してとらえさせるとともに、地理的技能を身につけさせる。

(イ) 小単元「球面上の世界と地域構成」の目標（学習指導要領の内容を単元の構成に合わせて一部修正）

地球儀と世界地図との比較、略地図の描図などを通して、地球表面の大陸と海洋の形状や各国の位置関係、方位、時差及び日本の位置と領域について理解させる。

(ウ) 大単元および小単元ごとの評価規準と学習における具体的評価規準

	大単元「現代の世界」の評価規準	小単元「球面上の世界と地域構成」の評価規準	学習活動における具体的評価規準
関心・意欲・態度	球面上の世界と地域構成、現代世界における人間行動の多様化、国際化に対する関心と課題意識を高め、それらを地理情報化して地理的環境と関連付けて追究する学習に意欲的に取り組み、地理情報の活用に関する技能を身に付けようとしている。	球面上の世界と地域構成に対する関心と課題意識を高め、それらを地球儀と世界地図との比較、略地図の描図などを通して追究する学習に意欲的に取り組み、地球儀や地図の活用に関する技能を身に付けようとしている。	世界時と標準時の意味の理解などを通して、世界の時間や時差などについて関心を高め意欲的に取り組むことができる。 北方領土の存在を理解し、位置や関係を考察して今後の領土問題を考えようとする意欲を身に付けようとしている。
思考・判断	球面上の世界と地域構成、現代世界における人間行動の多様化、国際化に対する課題を設定し、それらを他の地理的情報と関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、現代世界における地域性や多様化、国際化の動向をとらえる視点や方法を考察している。	球面上の世界と地球構成に関する課題を設定し、それらを地球儀と世界地図との比較、略地図の描図などを通して多面的・多角的に追究するとともに、地球儀や地図を活用して球面上の世界と地域構成をとらえる方法を考察している。	地球の自転・公転の意味を理解しそれらが及ぼす諸事象について考察できる。 サマータイム制の意義を理解し、実施している国の地理的な特徴を考察することができる。 地球儀と様々な図法の世界地図を通して、球面上の世界と世界の地域構成を多角的に考察することができる。 日本の位置を理解するとともに領域の意味を考察することができる。
資料活用 of 技能・表現	球面上の世界と地域構成、現代世界における人間行動の多様化、国際化に関する資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択、活用することを通してそれらを地理的に追究する技能を身に付けるとともに、そうした追究、考察の過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	球面上の世界と地球構成に関する資料を収集し、学習に役立つ情報を選択、活用することを通してそれらを地理的に追究する技能を身に付けるとともに、そうした追求、考察の過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	地球の自転運動から時差が生じることを理解し、時差の算出方法を身に付けている。 図法の異なる地図の特色を理解し、それに応じた用途を考察し利用することができる。 略地図の描画を通して世界の地域構成を表現することができる。

地理 A

知識・理解	球面上の世界と地域構成、現代世界における人間行動の多様化、国際化を理解するとともに、地理情報を活用してそれらをとらえる方法を理解し、それらの知識を身に付けている。	地球儀と世界地図との比較、略地図の描図などを通してとらえた球面上の世界と地域構成を理解するとともに、地球儀や地図を活用してそれらをとらえる方法を理解し、それらの知識を身に付けている。	地球儀を見て、地球の形状や大きさを理解している。 赤道・子午線の意味を理解している。 地球儀を使用して国や都市の間の方位・距離・位置・面積関係を理解している。
-------	---	---	---

4 小単元「球面上の世界と地域構造」の指導と評価の計画（各時間ごとの指導と評価の計画） （特に記録を残す評価）

1 地球上での生活			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
第1時間目	地球の形状と大きさ 地球の自転と公転	地球儀上から、地球の形状や大きさを理解する。【知】 赤道・子午線の意味を理解する。【知】 地球の自転・公転の意味を理解し、それらが及ぼす影響を考察する。【思】	意見発表 プリント提出
第2時間目	時差 世界時と標準時 サマータイム制	世界時と標準時の意味を理解などを通して、世界の時間について関心を高める。【関】 地球の自転から、時差が生じることを理解し、時差の算出方法を習得する。【技】 サマータイム制の意義を理解し、実施国の地理的特徴を考察する。【思】	国際線の航空機の飛行時刻表から時差の算出方法を理解させる。 プリント提出 サマータイム制実施国を着色し、意見発表させる。

2 地球規模からみた世界			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
第3時間目	地球規模でみる方位・距離・位置 地球と世界地図	地球儀を使用して、ある国や都市の方位・距離・位置・面積関係を理解する。【知】 図法の異なる世界地図を比較しその特徴と用途を理解し、どのような地図に使用すべきか考察する。【技】 地球儀と様々な図法の世界地図を通して、世界の地域構成を多角的に考察する。【思】	グループ別学習 地球儀を使用して測量方法を理解させる。 プリント提出
第4時間目	略地図 世界各国の位置関係	略地図の描図を通して、世界の地域構成をとらえる。【技】 地球儀や世界地図を通して、球面上の世界と地域構成を理解する。【思】	プリント上に略地図を描かせる。 プリント提出

3 世界的視野からみた日本の位置と領域			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
第5時間目	日本の位置と領域 北方領土問題	地球儀や世界地図を通して、日本の位置と領域を理解するとともに、領域の意味を考察する。【思】 北方領土の存在を理解するとともに、位置関係や現状を歴史的な経緯から考察する。【関】	意見発表 行動観察 歴史的な背景からとらえさせる。

学習指導案例

教科(科目)	地理歴史科 地理 A	単元名	球面上の世界と地域構成
本時主題	地球上での生活 (2時間目 / 5時間)		
本時の目標	地球の自転から球面上の世界における時間の移り変わりに関心をもち、球面上の世界で生活している認識をもつ。【関心・意欲・態度】 地球儀や世界地図を活用して各国の標準時や時差について理解するとともに、時差を算出して世界時や日付変更線の必要性について考察する。【技能・表現】 サマータイム制の意味や実施国をとらえることにより、球面上における各国の位置関係や面積を理解する。また、日本ではなぜサマータイムが行われていないかを推察する。【思考・判断】		

地理 A

指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価
<p>・地球の自転から、時差について理解させる。</p> <p>10分</p> <p>・世界時とその必要性について理解させる。</p> <p>・各国の標準時について、面積との関係で理解させる。</p> <p>20分</p> <p>・日付変更線とその意味について理解させる。</p> <p>35分</p> <p>・サマータイムの意味を理解させる。</p> <p>45分</p> <p>50分</p>	<p>地球の自転と時間の移動の理解</p> <p>Q 1) 時間はどちらの方が進んでいるだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間は東から西へ移動していることを理解する。 <p>時差の算出方法の理解</p> <p>Q 2) 1日で地球が1回転することは1時間あたりどれだけ動くことになるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経度が15°違つと1時間のずれが生じることを理解する。 <p>世界時の理解</p> <p>Q 3) 世界時はどこか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界時はイギリスのグリニッジを基準としていることを理解する。 ・イギリスが世界時の基準になった歴史的経緯を理解。 ・18世紀の産業革命による交通機関の発達により、人々の移動が活発になった結果、時間の標準化が必要になったことを理解する。 <p>各国の標準時の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本が兵庫県明石市を基準としていることを理解する。 <p>Q 4) ロシアやアメリカでは、なぜ標準時がいくつもあ るのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシアやアメリカの東西への面積の広さを理解させる。 <p>日付変更線の理解</p> <p>Q 5) 日付変更線はどのように設定されているか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日付変更線が世界時の裏側に陸地を避けて設定してあることを理解する。 ・日付変更線と日時との関係を理解する。 <p>時差の算出問題の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロンドンを基準にして、各国の首都の時差を算出する。 ・国際線の航空機の飛行時刻表から、時差についての問題を解く。 <p>サマータイム制の理解</p> <p>Q 6) サマータイム制とは何か？またそのメリットは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマータイム制とは何か。 ・サマータイム制のメリットを実施国を地図上で確認しながら思考する。 ・サマータイム制を実施している国を着色する。 ・標準時を1時間早めるサマータイム制は、高緯度の国々にとって昼間の時間を有効に活用できる制度であることを理解する。 ・日本ではなぜ行われていないのかを推察する。 ・東アジアの気候の特色と結びつける。 ・地球の自転からくる時差、世界時、標準時などと各国の位置関係のまとめをする。 ・次時の予告をする。 	<p>電球を太陽と見立て、地球儀を回しながら興味・関心をひきつづ説明する。</p> <p>地球1日1回転360°より算出させる。 【思】</p> <p>〈評価方法〉 発問・挙手・発表</p> <p>地図帳を使用し、経度0°上にあるイギリスの都市を確認させる。 【知】</p> <p>〈評価方法〉 発問・挙手・発表</p> <p>地図帳で兵庫県明石市と経度135°を重ね合わせながら確認する。 【知】</p> <p>地図帳を使用し、面積の広さを確認させる。 【関】</p> <p>〈評価方法〉 発問・挙手・発表</p> <p>日付変更線が曲折している理由を補足する。</p> <p>プリント使用 【技】</p> <p>〈評価方法〉 行動観察 プリントの事後提出で確認</p> <p>プリント使用 グループで意見交換 地球の公転と日照との関係を理解させる。 地球の公転と気候との関係にも気付かせる。 【思】</p> <p>〈評価方法〉 発問・挙手・発表</p>

